たがたは蠟人形館でもやったらいい』、というじゃありませんか。そして時間にして十四、五分で席を立ってしまったのです。一同唖然として声も出ませんでした」

知事に計画を説明した当時の具志頭村村長屋宜宣純は、

「私は県には当初、計画はなかったのではないかという印象を持ちました。県はわれわれの要請を受けて（いいアイデアだから県が）やるといったような気がします。上原さんは頑張ってやっていた。上原さんのアイデアを（知事に）乗っ取られた形です。結局県がその後どんどん計画を進めていったので、具志頭村の計画は自然消滅してしまいました」

という。その場に居合せた四人は、すべて大田にアイデアを剽窃されたと思っているのである。

実は上原は、大田にはもう一つ苦い経験を味わわされていたのである。八三年の六月に上原は仲間たちとともに、沖縄戦の記録フィルムの収集、いわゆる一フィート運動を始めた。これはアメリカ公文書館に眠っている沖縄戦の記録フィルムを、一フィートあたり百円で買い戻そうという運動であった。発表以来全国的に大反響を呼んだから、記憶にある方もいるかもしれない。運動は瞬く間に拡大していった。そこで上原は、運動の運営委員に十人の文化人を選んで、みずからは事務局長役に納まった。しばらくたって上原がアメリカへいっているスキにこの十人は、事務所を乗っ取り、会を乗っ取ってしまった。アメリカから帰って事務所へ行ってみると、様子が全く変わって座る場所がなくなっていたのである。「反戦平和を唱える由緒正しい文化人が、名誉欲と権力欲に取りつかれた偽善者だった」と気付いたときには、もう遅かったのである。この十人の運営委員の一人がかねて上原の知り合いだった知事になる前の琉球大学教授の大田であった。

具志頭村村長らとともに県庁に沖縄戦メモリアルの件で大田を訪ねたのは、九一年四月五日だったが、五月には大田は新聞・テレビで、『平和の壁』（のち平和の礎とネーミング）構想をぶち上げ始めた。二度の裏切りに猛烈に腹を立てた上原は、このいきさつを県議会で暴露する決意を固めた。その年の秋、県議会の文教厚生委員会で、二時間にわたって思いのたけをぶちまけた。

翌年の秋のある夜、那覇市内のホテルで沖縄占領史シンポジウムのあとパーティーが開かれた。上原もこのパーティーに顔を出したのだが、会場には大田も出席していた。やがて友人と取りとめのない話をしている上原に向かって「おい上原」と叫びながら、大田がつかつかと歩み寄ってきた。と、思う間も無く、顔を真っ赤にした大田は上原の脇腹を一発殴り、さらに「おまえの発言は何だ」と怒鳴りつけながら、両腕を強く引っ張った。上原が「君は沖縄県知事だぞ。いや沖縄の恥か」というと、ますます逆上した大田は、上原に向かってバリ雑言を投げ掛け続けるのだった。

上原はすぐに大田を暴行で県警に告訴し

酒都西条の名酒
うまさがちがう
品質第一
清酒 白牡丹
ハクボタン
延宝三年創業・三百年の伝統
広島・西条
白牡丹酒造株式会社
（飲酒は20歳を過ぎてから）

た。しかし、目撃者がいないという理由で、事件にはならなかった。私たちが探してみると一部始終この通りだという目撃者がすぐに二人見つかった。いくらパーティーで酒が入っているからといって、知事という公職にいるものが暴力を振るうケースは極めて珍しい。大田はかねて酒癖が悪いという評判があったが、これほどとは思わなかった。

官民挙げての大キャンペーン

第四の権力（マスコミ）は強い。沖縄問題は、下手をするとこの秋の重要な政治課題となり、政府の対応いかんでは解散につながりかねないともいわれる。八月二十四日には、自民党の加藤紘一幹事長と大田知事の会談があり、二十八日には代理署名拒否について最高裁で国側の言い分がほぼ認められた。九月八日にはわが国で初めての県民投票があり、十日には橋本総理と大田知事の会談も予定されている（この稿は八月二十八日時点の執筆である）。

大田知事は、一貫して「これは条件闘争ではない」といい続け、振り上げた拳を下ろす気配を一向に見せなかった。大田知事は一体何を考え、複雑で錯綜した利害関係と屈折した感情に悩む沖縄県民をどこへ誘導しようとしているのだろうか。

――県民投票は、大田知事の出身母体でありついこの間まで教鞭を執っていた琉球大学の教授が発議し、自治労出身の吉元政矩副知事が連合沖縄と相談の上、県民運動として県民投票条例を制定することを求めたのが、そもそもの始まりだった。連合沖縄は三万四千人の署名を集め県議会に請願、議会はもめにもめたが、結局最大野党の自民党だけが反対し実施を議決した。

県民投票の設問は、『日米地位協定の見直しと基地の整理縮小について、賛成か、反対か』というもの。沖縄県庁前など、繁華街の角にはオリンピック並みに、『県民投票まであと〇〇日』と九月八日の投票日までのカウントダウン用の標識が掲げられて、大田知事の県民投票にかける意気ごみが伝わってくるようだった。また、県の県民投票実施本部がまとめた活動方針を見ると、さらにこれは意気ごみを超えた大田知事の執念のようなものさえ感じさせる。なにしろ県庁の役人は総動員態勢で、街頭広報活動に連日駆り出され、日曜祝祭日には全管理職が動員された。八月十日以降は毎日午後二時から五時までが広報活動時間とされ、全県に散らばる県機関（合わせて二

こんな学校があった!!
全寮制・男子
聖パウロ学園高等学校
〒192-01
八王子市下恩方町2727
校長 鈴木信一
▼週五日制などありえない。全寮制なのだ。▼学校に住んで学ぶ。学住一体の教育。▼個性化の時代にふさわしい少人数制。▼推薦受験は中学の先生に申し出て早めに準備を。▼四人部屋。他人への配慮が知らぬ間に身につく。▼二年次に全員がヨーロッパへ研修旅行。▼親子ともに学校見学をぜひ。一見にしかず。▼学校案内申し込みは☎〇四二六（五一）三八九三 本校「入試センター」まで。